

文京区立元町公園及び旧元町小学校の保全・有効活用に関する提言

(素案)

平成 27 年 3 月

元町公園の保全及び旧元町小学校の有効活用検討会議

目 次

1 . はじめに	1
2 . 施設の概要等	2
1) 概要及び沿革	2
2) 計画地及び周辺状況等	3
3) 元町公園及び旧元町小学校の歴史性について	5
3 . 保全・利活用にあたって	7
1) 保全・利活用のための課題	7
2) 保全・利活用にあたっての視点	8
4 . 今後の整備に向けて	9

< 付属資料 >

- ・ 写真
- ・ 図面
- ・ 検討会議関連資料

1. はじめに

文京区立元町公園（以下「元町公園」という。）及び旧元町小学校は、大正 12（1923）年の関東大震災に伴う帝都復興事業の一環として、小学校と小公園を一体的に再建・整備した 52 の復興小学校の 1 つです。

平成 10（1998）年の小学校閉校後も、様々な形で暫定利用が行われながら、耐震改修以外には大規模改修など大きく手を加えることなく、復興小学校と小公園という当時の姿を保ってきましたが、築 88 年と施設の老朽化が進む中、現状のまま長期的に利用することが困難な状況となっています。

そこで、建物と公園との調和やその歴史性に配慮しながら、区民の貴重な財産としてさらなる有効活用を図るため、平成 26 年に「元町公園の保全及び旧元町小学校の有効活用検討会議」（以下「検討会議」という。）が設置されました。この検討会議では、小学校と公園の歴史性、防災性、街並みや景観、公共施設としての利活用及び民間施設としての利活用などについて、主に建築や防災の専門的見地から、保全と利活用の基本的な考え方や手法について、調査・検討を重ねてきました。

今後、本提言書をもとに、文京区として、元町公園及び旧元町小学校の歴史性ととも、地域における防災性、公共性にも配慮した保全と利活用を具体化し、長期的な有効活用が図られることを期待します。

平成 27 年 月

元町公園の保全及び旧元町小学校の有効活用検討会議

座長： 中林 一樹（明治大学大学院特任教授）

2. 施設の概要等

1) 概要及び沿革

元町公園

<施設概要>

所在地： 東京都文京区本郷一丁目1番

建設年： 昭和5（1930）年竣工

規模： 3,519 m²（法面含む）

<沿革>

- 大正12（1923）年の関東大震災後、東京市により、焼失区域の各小学校に付随して建設された震災復興小公園52カ所のひとつです。
 - 昭和25（1950）年10月1日、文京区の管轄となり、地域の公園として親しまれ使われてきましたが、老朽化が目立つようになり、昭和50年代後半、身体障害者等の利用に配慮したスロープ設置等の要望を受けて改修計画がたてられました。その際、古写真や図面、聞き取り等を参照して一部復元的整備が行われています（工事完了は昭和60年3月）。
- （資料集：図・2～3, 写真・6～19）

旧元町小学校

<施設概要>

所在地： 東京都文京区本郷一丁目1番19号

建設年： 昭和2（1927）年竣工

面積： （建物）4,878.89 m²、（敷地）4146.76 m²（法面含む）

構造等： 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、塔屋1階、（屋上利用可）

<沿革>

- 明治44（1911）年に東京市立元町尋常小学校として創立され、関東大震災で被災し、昭和2（1927）年、現在地に移転し、鉄筋コンクリート造の校舎（現校舎）に建て替えられました。
- セントラルヒーティングの煙突の撤去、建具や教室の内装などの部分的な修繕・改修を加えながらも、建替えや大きな改修を行うことなく小学校として使用されてきました。
- 児童数減少のため、平成10（1998）年に真砂小学校（同区本郷四丁目）と統合され、本郷小学校となり、閉校されました。その後は、文京区立本郷小学校の仮校舎、私立桜蔭中学校・高等学校や東京田中千代服飾専門学校の建て替え時の仮校舎等に使用されま

した。

- 現在は、学校法人順天堂に貸し出され、研究室、事業所内保育所及び病後児保育施設として利用（利用にあたって、復元可能な形での部分的な改修を実施）しているほか、避難所、投票所としても使用しています。

（資料集：図・〇〇〇，写真・1～5）

2) 計画地及び周辺状況等

計画地の都市計画

用途地域	：近隣商業地域	建ぺい率	：80%
容積率	：400%	高さの限度	：指定なし
高度地区	：最高限度 46m	防火指定	：防火地域
日影規制時間 / 日影測定面高	：指定なし	文教地区	：第一種文教地区

元町公園は一部南側が商業地域のため、容積率 500%、高さの限度は最高限度 60m となっています。

計画地周辺の都市計画

計画地一帯は近隣商業地域ですが、元町公園の南側部分については外堀通や神田川に隣接しており、都市計画の状況が異なります。

第 1 種住居地域：外堀通り、お茶の水公園

都市計画道路：外堀通り

（種類）幹線街路・補助街路

（整備状況）未整備

風致地区：外堀通り・外濠緑地・お茶の水公園

対象施設の地域防災計画上の位置づけ

ア. 元町公園

他の公園や児童遊園同様、震災時には地域にとって多様に活用できるスペースとなります。

なお、現状では元町公園周辺市街地は比較的不燃化しているため、公園が有する火災の延焼防止及び遅延効果の必要性は建設当時より薄らいできています。

イ. 旧元町小学校

本郷 1～3 丁目の南側の地域を対象とする避難所として指定されているとともに、避難者等被災者のための非常食や毛布等が備蓄されています。

ウ. 計画地周辺

計画地周辺地域(概ね500m圏)に存在する防災関連施設(防災地図に記載されている施設)は以下の通りです。

警察署・交番 : 壱岐坂交番

救急病院 : 順天堂大学医学部附属順天堂医院、東京医科歯科大学医学部附属病院

避難所 : 本郷台中学校(本郷1~3丁目の北側)

避難場所(一時的に火災等から身を守る広い場所): 後樂園一帯避難場所

消防団分団資機材格納庫 : 本郷消防団第1分団

給水槽 : 本郷給水所

防災行政無線屋外スピーカー : 2カ所

公園・児童遊園: 本郷給水所公苑

3) 元町公園及び旧元町小学校の歴史性について

関東大震災の帝都復興事業における復興小学校として建設整備された旧元町小学校及び元町公園は、戦災による破壊を免れ、その後の都市開発の影響も受けず、小学校との隣接配置という一体となった形で現存している数少ない事例であり、昭和2年の創設当時の小学校・小公園の計画理念と姿をとどめています。

元町公園

昭和5(1930)年に開園した元町公園は、東京市役所発行「元町公園案内」(発行年不詳ですが、建設当時のものと思われます)によれば、「(前略)北は本郷区元町小学校に隣接し、東側は街路に、南側はお茶の水端の電車通りに面し、西は高い崖となり、近くは飯田橋九段方面を眼下に、遠くは富士箱根の連峰より秩父の山々をも一望に収め得る眺望は本市小公園中他に比を見ないのであって又地形の関係から施設物の多いこと、面積の広いことも此の公園の特色であります」(旧漢字は当用漢字に改め、句読点を追加しました)と記述されています。

元町公園は、本郷台地が神田川に向かって下る斜面地の地形を取り込んで配置・設計されており、地形や眺望を活かした地割りや特徴ある造形が創設当時のまま現在に伝えられています。敷地は南北2段に分けられ、北側上段には自由広場と児童遊戯場が、外堀通りに面した南側下段は、急斜面に沿って設けられた大階段に沿って、西広場、東広場そして小広場がつくられています。そして、これらの広場の縁取りとして、一部に透かし彫りや彫刻をあしらった大谷石を多用したパーゴラ(藤棚)、カスケード(水段)、壁泉、露台があしらわれています。

なお、園内の樹木は年月とともに成長し、大木がやや密集した状況になっています。

旧元町小学校

昭和2(1927)年に竣工した旧元町小学校は、現存する復興小学校19校(平成22年3月現在)の1つです。

焼失地に設けられた復興小学校及び周辺市街地に設けられた改築小学校は、小学校の不燃化を図るとともに、様々な特別教室や手洗い場のある廊下など、校舎全体で科学教育や衛生教育・情操教育の充実を図り、校舎を地域社会へ開放するなど、当時の学校建築としては先進性を有するものでした。旧元町小学校については、あまり改修も行われてこなかったために、こうした思想を今に伝える重要な事例となっています。

旧元町小学校の校舎は、南側に開いたコの字型で、南面に隣接する元町公園に向けて開放され、当時は公園も空間の連続性に配慮した、一体的な空間が形成されていました。また、不燃化構造とするために鉄筋コンクリート造を採用し、外観は柱型を強調するデザインとな

っており、自然換気・採光を取り入れられるよう大きく窓を配置するなどの配慮がなされ、ボイラーによる集中暖房のための煙突が地域のランドマークになっていたようです。

内部は、教室の梁や柱とともに、階段親柱や階段室も角をとった丸い意匠により、空間に広がりをもたせており、木製の腰壁や建具が多く用いられています。

3. 保全・利活用にあたって

1) 保全・利活用のための課題

元町公園

- 時代の変化に伴い改変されるとともに、旧元町小学校との分断に伴って変更された公園の植生や遊具の配置などについて、一体的な利活用のために復元的改修が必要
- 前回の改修から相当な期間が経過しており、劣化が目立っている部分（土留め、縁石、擁壁の剥離やひび割れなど）の改修が必要
- 地域の貴重な緑である一方で、日照や視認性に難があったり、経年劣化による美観の喪失や、防犯の面で課題がある植栽の適正な管理
- 動線の再編やスロープの設置など、総合的なバリアフリー整備
- 親しみが持て、誰もが集える、賑わいのある公園として有効活用するための整備

旧元町小学校

- 耐震改修しているものの、一般的な耐用年数を過ぎた鉄筋コンクリート造や鉄骨造の建築物への対応
- 打診及び赤外線カメラによる外壁診断（平成 24 年度）で明らかとなった、全般的に見られる外壁・モルタルの剥離や浮き、鉄筋の腐食への対応
屋上や外壁からの雨漏りがあり、全面的な防水対策の推進
- 古くなった配管、空調、配電、通信など設備系の物理的劣化、機能的劣化への対応
- エレベーターの設置など、誰もが利用しやすい、総合的なバリアフリー整備
- 元町公園との一体的な利用や新たな利活用を視野に入れた、校庭や擁壁等外周部の改修
- 投票所や区民等による活用など公共機能の拡充と、民間活力の導入を可能にするため、地下の活用も含めた有効面積の確保と公民の利用区分等に関する工夫
- 地域防災拠点としての避難所等防災機能をどのように確保するかの検討

（資料集：図・4～5,写真・20～27）

2) 保全・利活用にあたっての視点

1：歴史性の継承

- 創設当時の設計意図である「公園と小学校の一体利用」や、校舎の煙突などの創造的復元を図る工夫が必要です。
- 元町公園は、大谷石に施されたモチーフ等の意匠などについて一部保存・修復を行うほか、小学校との一体的利用時の園具や植生の配置を復元するなど、歴史性に依拠した活用をしていくことが望まれます。
- 旧元町小学校は、モダニズムの意匠や内部の意匠（腰壁、階段手すり、天井、板張床、間口と建具、洗い場等）などについて一部保存・修復を行うほか、煙突の創造的復元や外周部の整序など、歴史性を継承した活用を工夫していくことが望まれます。
- 周辺地域を含め、緑豊かな歴史的まちなみの形成に寄与するよう、景観との調和に留意が必要です。
- 単に歴史を残すのではなく、未来に活かすことが歴史性の継承であるとの視点に立って工夫することが重要です。

2：憩いやにぎわいの空間の創出

- 公園、校庭、学校の一体的利用を前提に、公園と学校の境界部のフェンス等を撤去し、動線や施設レイアウトを含めた賑わいと憩いの空間形成を工夫するとともに、利用者にとっての施設内外でのセキュリティの確保が重要です。
- スロープやエレベーター設置など、公園とともに施設においても総合的なバリアフリー（ユニバーサルデザイン）化が必要です。
- 公園など外構部において、樹木整理等による視認性の確保や明るく開放的な環境の整備等が求められます。

3：リノベーションによる利活用

- 長期的な利活用を保証する建物の耐震性の確保、擁壁の補強等による施設の安全性の確保、および屋上や外壁の防水性能の確保に取り組む必要があります。
- 外壁改修や、配管・空調・配電・通信など設備系の更新に加え、エネルギー効率の向上や自然エネルギー等環境へ配慮した設備の導入が求められます。
- 地域における防災の拠点として、避難所や備蓄等防災機能の向上を図ることが求められます。
- 将来的な機能保持のため、機能更新への対応、維持管理の容易性、メンテナンス方法についても十分な方策を検討することが必要です。

4：民間活力の導入

- 区民の貴重な財産として有効かつ安定的に活用していけるよう、公共の利用と民間による利活用との併存が求められます。
- 将来的な維持管理コスト削減の方策についての検討が必要です。
- 民間事業者の提案を募集することが望まれます。

4．今後の整備に向けて

- 投票所や避難所、保育所など、今後も必要となる公共機能の確保や、地域に開かれた機能のあり方についての検討が必要です。
- 保全・利活用を効果的・効率的に進めていくための最適な事業スキームの構築や、整備後の新しい魅力の付加も視野に元町公園及び旧元町小学校の歴史性を踏まえた文化財登録の検討も望まれます。

< 付属資料 >

写真

- 写真-1：創設当時の元町公園・元町小学校復元模型（江戸東京博物館）
- 写真-2：創設当時の元町公園（ ）東京都公園協会所蔵/昭和5年）
- 写真-3：創設当時の元町公園（ ）東京都公園協会所蔵/昭和6年頃）
- 写真-4：創設当時の元町公園（ ）東京都公園協会所蔵/昭和5年）
- 写真-5：創設当時の元町公園・元町小学校（ ）東京都公園協会所蔵/昭和5年頃）
- 写真-6：元町公園 正面入り口
- 写真-7：元町公園 カスケード
- 写真-8：元町公園 露壇と彫刻
- 写真-9：元町公園 パーゴラ
- 写真-10：元町公園 滑り台
- 写真-11：元町公園 飾り井戸
- 写真-12：元町公園 自由広場
- 写真-13：元町公園 境界部
- 写真-14：元町公園 土留めの剥離・ひび割れ
- 写真-15：元町公園 縁石のひび割れ
- 写真-16：元町公園 擁壁の剥離・ひび割れ
- 写真-17：元町公園 植栽の劣化 高木
- 写真-18：元町公園 植栽の劣化中低木
- 写真-19：元町公園 植栽の劣化 草本
- 写真-20：旧元町小学校 全景
- 写真-21：旧元町小学校 外壁（柱型）
- 写真-22：旧元町小学校 階段室（手摺、腰壁）
- 写真-23：旧元町小学校 体育館
- 写真-24：旧元町小学校 温室
- 写真-25：旧元町小学校 建具（サッシ・扉）
- 写真-26：旧元町小学校 外壁の剥離
- 写真-27：旧元町小学校 外壁のひび

図

図-1：帝都復興事業計画書（出典：災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 関東大震災【第3編】/内閣府）

図-2：建設当初のものと思われる元町公園平面図（出典：元町公園案内/東京市役所）

図-3：現在の元町公園平面図（出典：元町公園現況調査/平成18年より作成）

図-4：旧元町小学校 建設時の復元図面

図-5：旧元町小学校 耐震改修時の図面

検討会議関連資料

検討会議設置要綱

検討会議名簿

検討経過